

山梨県民の生活状況に関する調査結果（概要版）

1. 調査目的

山梨県にお住まいの幅広い世代を対象に、性別や年齢ごとに日常の行動や生活状況を把握し、県民の皆様がどのような困難な環境や境遇に置かれても、そこから抜けだし、誰一人取り残されない社会の実現をめざし、今後の施策立案の参考とする。

2. 調査項目

回答者の属性(性別、年齢、居住地)、同居者の状況、就業(学)の状況、就業経験、現在の外出状況(経過年数)、現在の外出状況になった理由、現在の悩み、希望する相談窓口 など

3. 調査方法

- ・調査対象:山梨県内に住民票がある満15歳から満69歳までの個人(令和5年10月1日時点)
- ・調査人数:住民基本台帳から無作為抽出した男女合計4,000人
- ・調査方法:Web(インターネット)による回答
- ・調査期間:令和6年2月1日～2月29日
- ・回収結果:1,665人(回答率:41.6%)

4. ひきこもり状態にある者

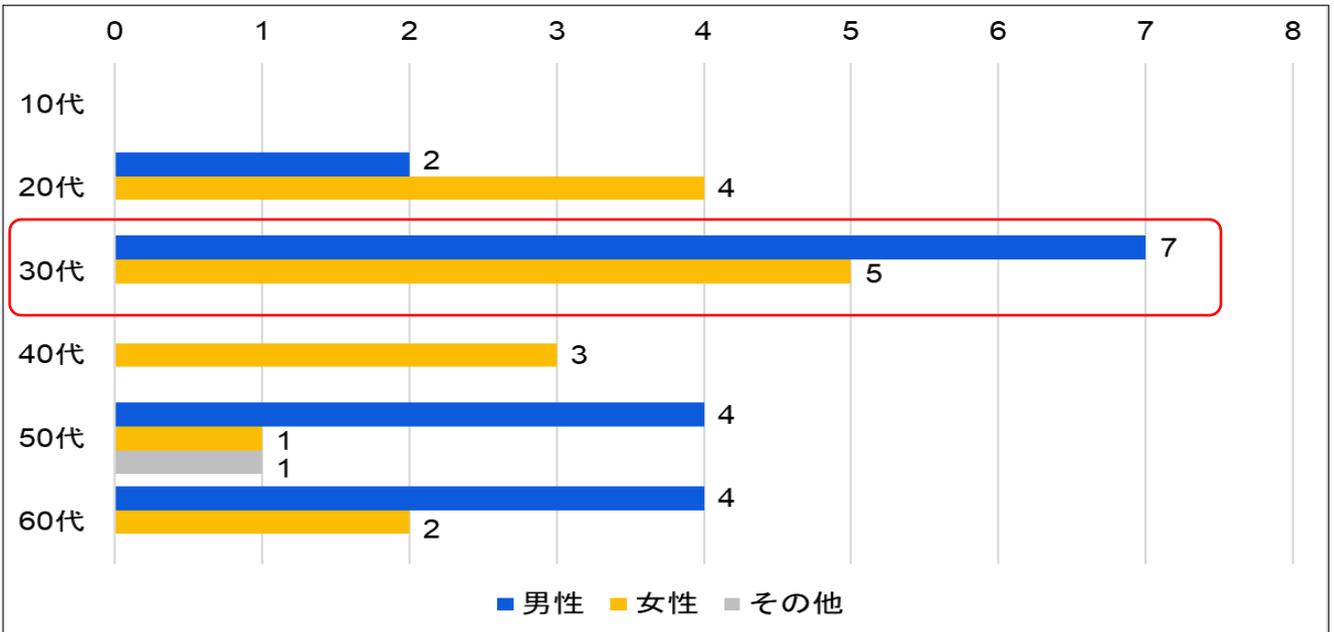
令和4年度に実施した、国の調査(こども・若者の意識と生活に関する調査)結果における抽出条件に準じて抽出。

■ 回答者の属性(性別) ※単一回答(単位:人)

- 回答者全体に占める、ひきこもり状態にある者の割合は、男性17人(2.3%)、女性15人(1.7%)、その他1人(9.1%)、合計で33人(2.0%)となった。
- 国が令和5年3月に公表した「こども・若者の意識と生活に関する調査」では、生産年齢人口である15歳から64歳までの年代において、全国では146万人がひきこもり状態にあると推計されている。
- 本調査において、生産年齢人口で推計すると、本県では約9,000人がひきこもり状態と推計される(令和2年国勢調査結果を利用)。

■ 回答者の属性(年代) ※単一回答(単位:人)

○ 男女ともに30代が最も多く、合計で12人(36.4%)となった。

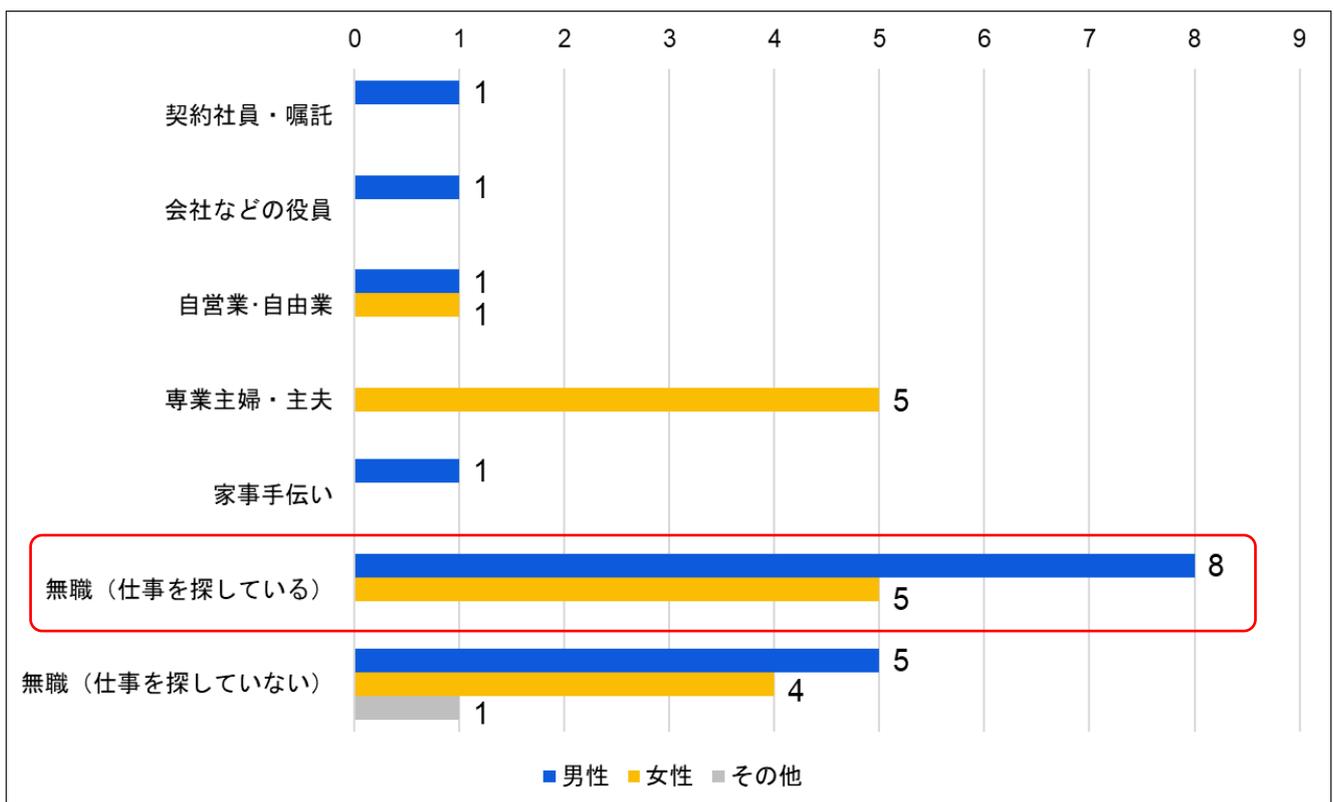


■ 就業の状況 ※単一回答(単位:人)

○ 男女ともに「無職」が最も多く、合計で23人(69.7%)となった。

○ 無職のうち、「仕事を探している」を選択した者は、男女ともに最も多く、合計で13人(39.3%)となった。

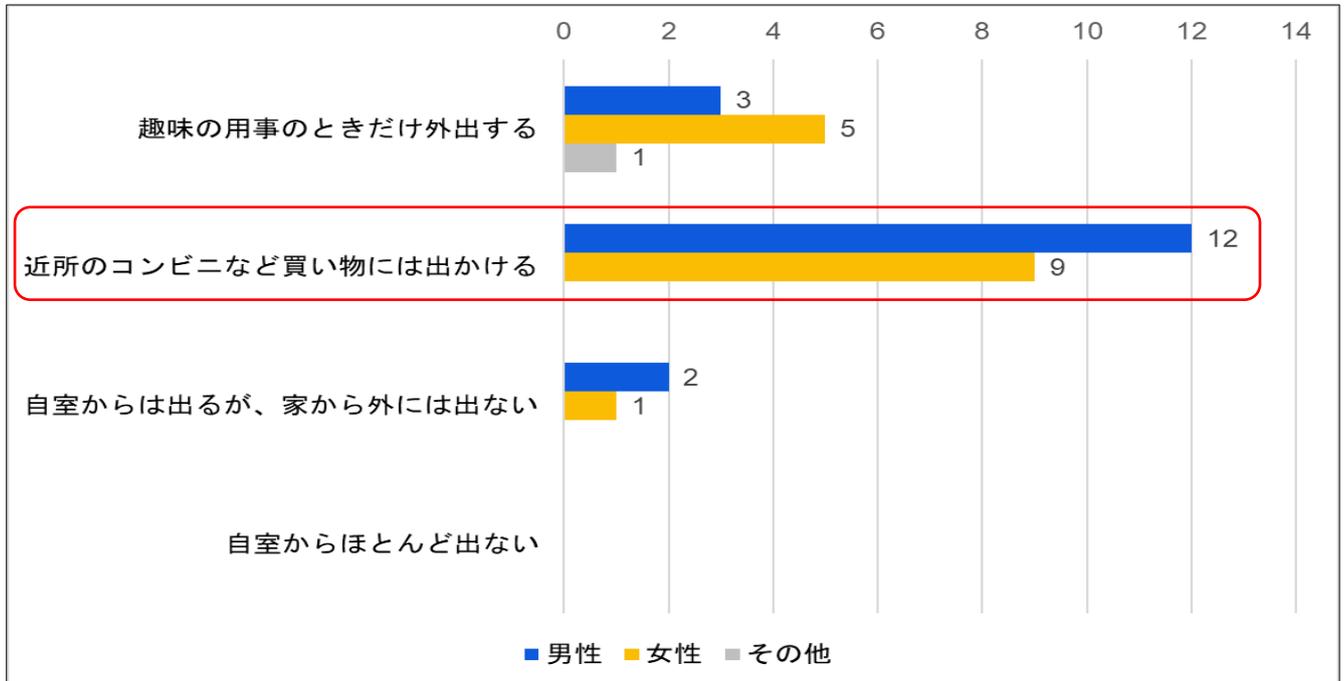
(n=17(男),15(女),1(その他))



■ 現在の外出状況 ※単一回答(単位:人)

○ 男女ともに「近所のコンビニなど買い物には出かける」が最も多く、合計で21人(63.6%)となった。

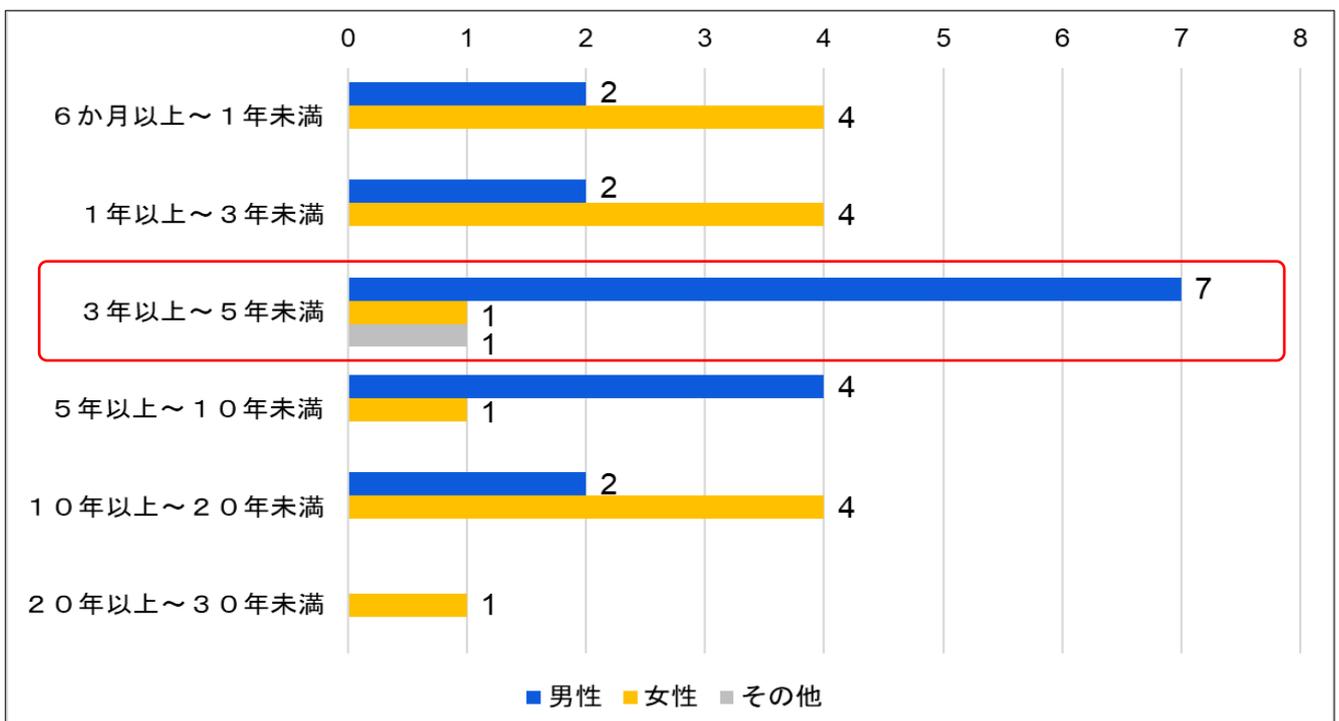
(n=17(男),15(女),1(その他))



■ 現在の外出状況になってからの期間 ※単一回答(単位:人)

○ 全体として「3年以上～5年未満」が多く、合計で9人(27.3%)となった。

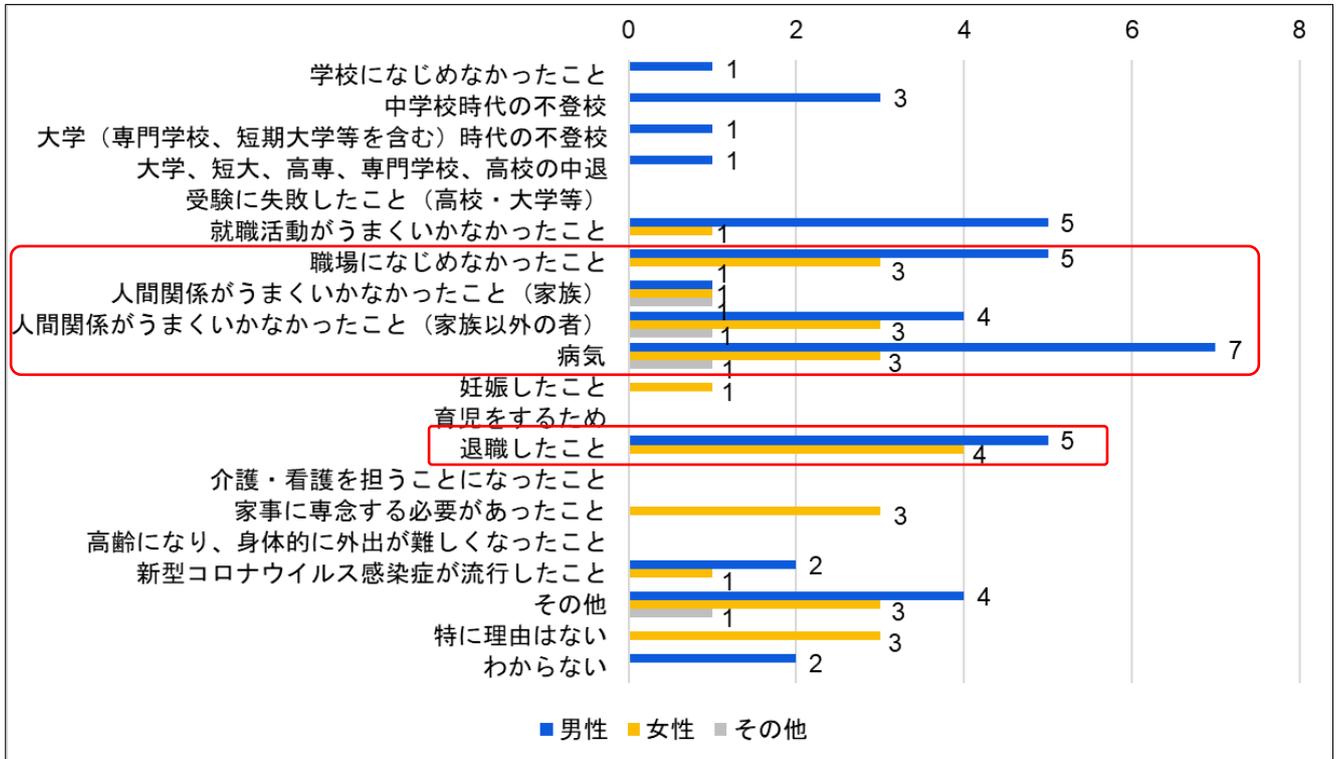
(n=17(男),15(女),1(その他))



■ 現在の外出状況になった理由 ※複数回答(単位:人)

- 「病気」や「人間関係」を選択した者が最も多く、それぞれ11人(33.3%)となった。
- 次いで、「退職」9人(27.2%)、「職場になじめなかった」8人(24.2%)を選択した者が多かった。

(n=17(男),15(女),1(その他))



■ 現在の悩み ※複数回答(単位:人)

- 男女ともに「お金」、「将来」、「仕事」、「就職」を選択した者が多かった。

(n=17(男),15(女),1(その他))

